

8) エゴノキ

エゴノキはエゴノキ科の落葉小高木で5~6月ごろ白い花を下向きにつける。花は釣鐘状で花柄が長く花弁は深く5裂し上品で美しい。日本各地の山野に自生するいわゆる雑木で、世界では北半球に130種ほど分布している。最近では公園やビルの谷間などの小緑地にもよく植えられている。エゴノキの和名の由来は、果実には有毒物質サポニンが含まれ、果皮がエゴイ、エガラッポイところから生まれたものである。また別称も多く轆轤木(ロクロギ)、轆轤の木、猿滑り(青森、福井)、座頭の杖、石罅の木(鹿児島)などさまざまである。『轆轤』とは番傘の骨の集まるところで、円筒状になった開閉する部分のことである。この部品をエゴノキで作ったことに由来する。『猿滑り』は夏に咲く花の『百日紅』ではない。樹肌が灰白色ですべすべしているからである。座頭の杖はこの木が杖としても使われるためだが、これは差別用語と見るべきであろう。『石罅の木』は文字どおりこの樹皮を石罅がわりに用いたからであるが、石罅の木と呼ばれるものは他にもムクロジや、ネムノキなどがある。中国では『斎墩花』とするものの、これはオリーブのことで誤用である。イギリスでは『Japanese snowbell』である。またギリシャでは安息香(アンソクコウ=storax)をこの木から採取したため、学名は『*Styrax japonica*』である。安息香は芳香族アミノ酸の一種で香りが良い樹脂で、薬用としてもまた香料としても広く用いられている。『万葉集』では『知佐』とか『老師』(イチシ)として柿本人磨は以下の歌を残している。

路の辺の老師の花のいち白く 人皆知りぬ我が恋妻を

この木の持味はひなびた花の美しさもさることながら、用材としての価値というべきであろう。材は黄白色で緻密な上に粘質もあり、工作が容易なため、ロクロで形を作る玩具、こけし、糸巻きのほかに、将棋駒、櫛、そして建築の分野では床柱や、茶室の天井、窓格子の造作などにも用いられている。

エゴノキはサポニンを多く含んでいるため、これを川に流して魚が麻痺して動けなくなったところを捉える漁法などにも用いられた。サポニンは豆腐などにも多少含まれており、豆腐がダイエットに良いとされているのはこのためでもある。

エゴノキは大きくなる木でもあるから、一般の家庭では多少とも持て余し気味になるかも知れない。しかし鉢でも育てることができる。20~30cm ぐらいの高さのものでも花をつけてくれる。鉢で育てるこつはやはり土と肥料である。エゴノキは赤玉土がよく、肥料は油粕の置き肥とする。多肥よりもむしろ少なめにするぐらいで育てて行くと、ほど良い盆栽にすることができる。最近の品種では花に淡い紅をさすものもあり、これは上品で優しげである。またこの枝垂れ種も販売されている。連休の頃山野草の店などを覗いてみると良い。ひなびたところに何処か心安らぐ優しさを持っており、素朴さこそがこの花の身上ともいえよう。繁殖は挿し木か実生によるが、白花種であれば実生苗を山取りすることも困難ではない。



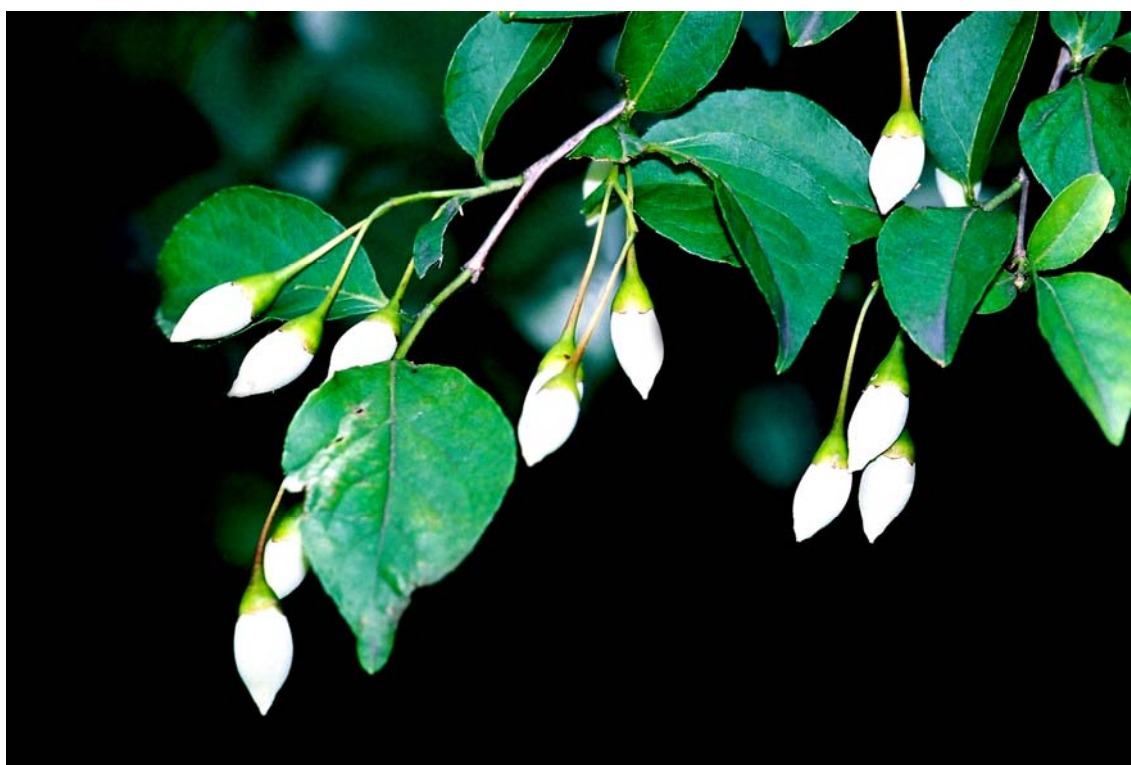
エゴノキの花、下向きに咲かせる花は優しげで美しい(埼玉県所沢市)。



白花エゴの枝垂性品種。最近植木屋さんでも良く見られるようになって来た(さいたま市大宮区)。



紅花エゴノキ、埼玉県の川口や花園の苗木屋さんでもよく見られるようになった。最近では紅花種で枝垂性の木も栽培されており、これはなかなか風情がある(さいたま市大宮区)。



エゴノキの果実(群馬県高崎市染料植物園)。

[目次に戻る](#)